



八千代市郷土歴史研究会
 会長 村田一男
 事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

平成16年度定期総会を開催

本会 16 年度総会が、4 月 11 日(日)八千代市郷土博物館にて、午前 10 時より 12 時まで開催されました

参加者数 30 名(会員数 54 名)にて、15 年度事業報告、決算報告を承認いただき、16 年度事業計画案(決定を下記に掲載) 予算案を審議、決定しました。

お知らせ

5 月 16 日 例会
 旧高津村の調査と情報交換
 午前 10 時から 高津山観音寺本堂にて

6 月 12 日(土)~13 日(日)
信濃の歴史探訪旅行(小布施・松代方面)

- ・6/12 勝田台 6:50 集合 = 森將軍塚古墳・長野県立歴史館 = 川中島古戦場 = 善光寺 = 小布施町・岩松院 = 湯田中温泉泊(星川館 tel0269-33-3278)
- ・6/13 = 小布施・北斎館・日本あかり博物館・高井鴻山記念館 = 豪商の館田中本家 = 松代城跡 = 真田邸・真田宝物館 = 象山地地下壕 = 勝田台着 19:30 ごろ

会費: 33,000 円(予定) 25 名まで **参加者募集中**

7 月 18 日(日) 例会 市郷土博物館 午後 1 時

8 月 15 日(日) 例会 市郷土博物館 午後 1 時

八千代市郷土歴史研究会 平成16年度事業計画

1、年間事業予定(6月までを省略 一部改正)

| | | |
|--------------------|-----------|--------------------------------|
| 7 月 18 日(日) | 例 会 | 調査研究情報交換 於: 市郷土博物館 |
| 8 月 15 日(日) | 例会・学習会 | " 原稿打合せ 郷土史研通信 47 号発行 於: 市博物館 |
| 9 月 12 日(日) | 拡大役員会 | 原稿締め切り、編集打合せ 於: 市郷土博物館 |
| 9 月 19 日(日) | 例 会 | 展示作品・機関誌編集打合せ 於: 市郷土博物館 |
| 10 月 3 日(日) | 例 会 | 「史談八千代」29 号校正 於: 市郷土博物館 全日 |
| 10 月 17 日(日) | 見 学 会(予定) | 県内(保護の会との合同見学会) |
| 11 月 14 日(日) | 例 会 | 文化祭展示作品制作作業 於: 市郷土博物館 全日 |
| 11 月 20 日(土) | 文 化 祭(予定) | 会場準備・一般公開 |
| 11 月 21 日(日) | 文 化 祭(") | 一般公開・会場片付け 郷土史研通信 48 号発行 |
| 12 月 19 日(日) | 見学会・反省会 | 市内見学と忘年会 |
| 平成 17 年 1 月 9 日(日) | 見 学 会 | 北千住(千寿)七福神めぐり |
| 2 月 20 日(日) | 例 会 | 次年度調査研究課題の検討 通信 49 号発行 於: 市博物館 |
| 3 月 6 日(日) | 拡大役員会 | 平成 17 年度事業打合せ他 於: 市郷土博物館 |
| 3 月 20 日(日) | 見 学 会 | 歴史散歩 |

2、本年度の主な事業予定

- 1、本年度研究課題・旧村の今「旧高津村」調査まとめ・文化祭展示発表
- 2、三山七年祭開催年の調査(祭りまでの地区の動き)まとめ
- 3、「史談八千代」第 29 号の発行
- 4、市内社寺奉納俳額句碑等悉皆調査(継続)
- 5、「郷土史研通信」の発行(5、8、11、2、の各月)

2月11日 高津新田諏訪神社
「諏訪神社の縁由」碑の除幕

高津新田諏訪神社にて、カラスビシャの行われる2月11日、9時30分より「諏訪神社の縁由」石碑の除幕式が、来賓として八千代市長参列のもと、厳かにとり行われ、八千代市郷土歴史研究会から会長ほか、15名の会員が参加しました。

石碑碑文は、諏訪神社礎石の碑文を歴史的に記述することについて会長が依頼をうけ、本会の高津新田研究をふまえて撰文し、八千代市郷土歴史研究会名での石碑建立となったものです。(蕨)



以下が、碑の銘文(銘文は縦書き)

諏訪神社礎石改修について

平成十五年一月、諏訪神社の「カラスビシャ」が八千代市の民俗文化財に指定されました。これを記念して民俗行事を後世に伝え、村の連帯と発展を願い、氏子五十三名の総意による浄財で風化していた諏訪神社の礎石の改修工事を行いました。

諏訪神社の由来

諏訪神社の改修された礎石の銘文は、正面に「平成十五年度修繕費寄附連名」があります。左面には「縁由」、右面に「諏訪神社銅屋根寄附連名・修繕事由」、裏面に「周旋原由」が彫られています。この三つの碑文の内容を歴史的にまとめると次のようになります。

「高津新田は、大木家の先祖である八郎兵衛重正らが当地に入植し、延宝四年(一六七六)六月の検地で幕府領として成立した村です。その後大木家では、開拓が盛大になるようにと念願して宝暦七年(一七五七)ここに諏訪神社をお祀りし鍵元として守ってきました。さらに御霊

屋の破損修理までおこなってきました。

五代の大木八郎兵衛豊重は安永九年(一七八〇)にご本社を新しく建てました。

そして十一代大木八郎兵衛隆重は文久元年(一八六一)に獅子を建て、慶応三年(一八六七)には石燈籠と華表(鳥居)を建てる計画を自ら立て、氏子と相談しこれを実現しました。このとき発起人となったのは谷原甚兵衛重平・稲垣辰治郎利治・稲垣嘉平治嘉明・内田平左衛門朋平の四氏で、周旋方として加わった和田久治郎治久・谷原長兵衛原良・飯生長右衛門右長の三氏が大いに尽力されました。

この実績をもとに大木與平治重興は明治十六年(一八八三)二月、本社の修繕と屋根を銅瓦にする事業を発意し、谷原甚兵衛重平ほか六氏が事業の周旋人となって氏子一同心を一つにして工事を完成することができました。ここに敬神の念深い皆さんの功をたたえ、建立事情を書きしるしておく次第であります。」

諏訪神社は江戸時代中ごろに大木八郎兵衛家によって勧請され、このように多くの人の熱意と尽力で守り継がれ、村の発展とともにあゆんで来ました。村人と氏子一同のこころのよりどころとしてこれからも地域の繁栄を見守ってくれることでしょう。

平成十六年二月

設立 諏訪神社氏子一同
撰文 八千代市郷土歴史研究会

2月15日(日)午後1~4時半
例会 旧高津村の基本学習

・八千代市郷土博物館にて
・参加者数24名(うち新会員2名)
・石碑「高津新田諏訪神社礎石改修について」の撰文の経過とその内容が報告されました。

・16年度の研究課題「旧高津村」について既出の基本的な資料に当たりながら、共通理解を深めました。

内容

・高津村とは・『千葉県地名大辞典』(角川&平凡社)記事
・地理・現在の地図と、明治29

年陸地測量部迅速図からみるムラの範囲

・近世史・『八千代市の歴史』から「間宮氏と高秀霊神」「農間余業」など

・民俗行事・『八千代市の歴史資料編・民俗』から「ハツカビシャの奉社帳記載氏子名」「両墓性」など
・古文書読解・『下総国葛飾郡高津村辰新田水帳』

3月7日(日)午後1時~4時
拡大役員会

役員のほか積極的な会員の参加で14名が、八千代市郷土博物館にて、4月の定期総会へ向けての議案をまとめました。

また「高津」の総合調査研究へ向けての熱心な討議を行いました。

飯綱神社階段左下の
道標(B11)データを記録

3月28日、まだ未調査だった飯綱神社階段左下の道標を、蕨・関間で計測・撮影・拓本採拓の作業をし、データを収録しました。

B11 道標データ

・銘文
正面
「北城橋ヲ経テ米本麦丸ニ至ル」
左面
「南ノ御大ノ典ノ記念ノ当区ヲ経テ大和田新田高津ニ至ル」
背面
「西吉橋寺ヲ経テ高本ニ至ル」
右面「(欠損)萱田青年団」
註=「橋」は異体字を使用
右面の欠損部分には「年」らしき字がある
・法量=18cm×18cm×H83cm

花崗岩製で読みづらく、左面の上部と右面の解読が難航しましたが、拓本+デジカメの威力と推理力で何とか解読にこぎつけました。(蕨)



3月14日(日)
高津地区フィールドワーク
- 現れたお地蔵さん -
小菅 俊雄

桜の花も開き、こぶしも綻びはじめた、ハルウララな一日、平成16年度調査課題の「高津」を知るため、会員26名が参加してフィールドワークを行った。

観音寺に1時集合、参考資料の配布を受けたあと、会長より本日のフィールドワークの目的についてお話をうかがった。

調査に入るにあたり「ムラ」を自分の足で歩いて実際の感触を深めようとのことである。

この1月のツジキリを調べた蕨会員の案内でムラの境を確かめて歩くことにする。



観音寺から韓国式鐘樓の横の坂道をとって高津比咩神社へ、神社は三山の七年祭を終えて広い社叢林の中に鎮まっている、看板では、祭神は多岐都比売命他4柱、境内、境外に各4つの末社がある。

神社を出て、バス通りを渡り、その道を高津団地方向へ150mほど行き信号のある四辻を左へ入ると直ぐの電柱に門原のツジキリがある。ムラの境である。

このツジキリは蛇でなく、縄を丸めて高津比咩神社のお札・ヤツデの葉・ヒイラギの枝・唐辛子・お米・蛇の目を書いた紙に包んだ線香・ニンニクの球根・幣束を縄に挟んだものである。

バス通りに戻り左へ、一つ目の地中海料理「赤い屋根」の角を右へ入る、すぐの林の木に大門のツジキリが見つかる。

この道をさらに進むと観音寺の高津西霊園に突き当たる、その角に整然と並んだ13基の馬頭観音群がある、造立年代は1基不明であるが他の12基は宝暦12年(1762)から大正12年(1923)までにわたっている。

道路の整備などによって、ここに移されたり、また近くの馬の葬り場から移されたものとも言われるが、日々の生活を支えてくれた馬の安らかな眠りを祈る心が偲ばれる。

またバス通りにもどり左へ、高津団地入口の十字路手前の笹藪に西のツジキリが見つかる。

さらにバス通りを北へ行くと高津川の西谷津にでる、一帯に水田が広がる。

少しバス通りを戻って左へはいる、住宅街になっているところを東へ行く、また谷津にでると、すぐマテバシイの大木の林がある。その脇に昭和53年4月吉日建立の高津西谷津土地改良事業共同施工を記念した記念碑が建っている。その奥に小さな祠がある、高津比咩神社の境外神社の子ノ神社(根上様)で祭神は大己貴命である。

つぎに東高津中学をめざす、ここもムラの境である。

東高津中から妙見様に歩をすすめる、中村地区の新しい住宅が並んでいる中に長屋門の立派な旧家があった、その先三叉路の辻に石祠があり、文化7年正月吉日造立(1810)の妙正大明神と文化9年11月吉日造立(1812)の子安大明神が小さなお地蔵さんを真ん中にはさんで祀られている、町内でお世話をしているとのこと。

それからすぐの林の中に妙見神社が祀られているのを見る、ここも高津比咩神社の境外神社の一つである。

神社の左側、竹藪の中に足を踏み入れる、石碑が一つある、正福寺之跡と銘文が読める、以前ここに正福寺というお寺があった、この事実の詳しい経緯は「郷土史研通信」32号の蕨・石井・村上各氏のレポートを読んで頂きたい。

妙見神社を後にして、しばらく行くと坂道となり右に高津館址のこんもりした竹藪を眺めながら坂をおり、大きな通りに入る、左へ行くと、高津観音堂である。

観音堂に上がる石段の左右に(C05)(C06)の道標がある。観音堂は両墓制で埋葬するところとその霊を祀るところがわかれている。

その埋め墓が観音堂の後ろに広がっている、塚になっていてたくさんの草木が植えられている。

観音堂の前庭にも石塔や記念碑などが多く見られる。観音堂と通りを隔てて池がある、弁天池で弁天さまが中の島に祀られている。現在水

は綺麗ではないが、以前は綺麗な池であったものとおもわれる。

さらに足をのばして北田のツジキリまで、そこにあった「咳の神様」が見つからないので、その家の人に聞いたところ、邪魔になるので観音堂に移したとのこと、観音堂に戻って調べると、階段の左脇に(C06)道標や馬頭観音などが祀られている場所に置かれていた。



銘文が刻まれているので、皆で考える、「三人よると文殊の知恵」というが26人よると良い知恵が出るもので、「地蔵堂之跡」と読むことが出来た。

さらに牧野事務局長が石塔の側面の筋が衣紋ではないのかと疑問を持ち裏を見たところ合掌したお地蔵さんと判明、ただ頭部が欠けているのが残念である。「咳の神様」から現れた「お地蔵さま」には皆びっくりであった。お地蔵さんを表面にして置きなす。

観音堂から観音寺に戻る途中で私有地の中の高津館址土壘を見学する。竹がびっしり生えている土手が土壘のあとで前面に空堀がある。会長の説明を聞く。

今一部土壘もつぶされて携帯電話のアンテナが立っているのを見ると時代の流れを感じさせられる。

今日のフィールドワークの締めくくりに観音寺に戻って、以前にはブロックの塀が邪魔でよく見えなかった道標(C04)の銘文を確認した。

今日、高津を半日歩いたことで各人それぞれがいかに課題を見つけ、どのように取り組むか、手がかりを見つけていくことが出来れば良いと思います。

ここで解散し余力のある有志は部田のツジキリや馬頭観音群を見て高津川沿いに歩き自衛隊のフェンス越しに大六天社を拝み八千代台駅で解散する。

史跡探訪

続・安房里見氏の跡をもとめて

牧野光男

「史談八千代」第21号(平成8年)に「鳥取県倉吉市の安房里見氏終焉の地」として倉吉市にある「萬祥山大岳院」にある里見忠義主従の墓の事を書いた。その時は関金町(旧堀村)にある最後の地と言われているところまでは足を伸ばせなかったで、その伝承である「アワノカミサマ」のことまで書いた。平成16年3月、機会があり関金町と倉吉市を訪れその伝承地を見聞する事が出来たので、前回の補足をしたい。

この史実は、里見安房守忠義は、慶長19(1614)年9月9日將軍秀忠に重陽の賀儀を述べるため江戸城に出仕したときに、倉吉への転封の沙汰があった。この転封は安房3万石を取り上げ、鹿島郡内の3万石の替地として伯耆倉吉3万石を与えるというものであるが、現地は4千石ほどしかなく実質改易であった。里見主従は12月に倉吉に着き神坂町に居を定めたが、元和3(1617)年6月池田光政が鳥取藩32万石で因幡・伯耆を領有すると、領地は取り上げられ100人扶持を与えられて久米郡田中村(現・倉吉市)へ移された。

(この地には神社があり里見屋敷跡として案内板がある)。元和5(1619)年冬、ここからずっと山奥になる堀村(現・関金町)に居を移した。ここは伯耆大山や美作との国境にそびえる山々を望む地である。ここで元和8(1622)年6月19日に29才の若さで病死した。遺骸は川原で火葬されて大岳院に葬られた。残された家臣たちは3ヵ月後の命日9月19日に殉死し、遺言により大岳院へ葬られた。大岳院では、この家臣たちの法名に「賢」をつけたところから「八賢士」と呼ばれ、後に馬琴の「房総里見八犬伝」のモデルになったのではないかと、という概略である。

最後の地である旧堀村には「アワノカミサマ」の話や、「六人の武士」の話などが伝えられている。話の一つ、「山郷の一軒家である神主の家にある時泥棒が入ったが、座敷を見てびっくりした。そこには鎧を着た武士六人が並んでおり、腰を抜かさんばかりに驚いて退散した話」であるが、近くに「六人塚」と呼ばれているものがあること。神社の近くに大きな椎の木の下に祠があり、毎年神主が神楽を奉納してきたが、その

わけまでは伝えられなかった。K先生の研究によって分かったことは、そこは里見忠義が最後まで住んでいた屋敷跡であったこと、などが符合しているという。現在は町によって説明板が建てられている。また「アワノカミサマ」として野辺にまつられていた石も圃場整備のため集められてはいるが、大切に祀られている。ある家での話。ある年5回も葬式を出す不幸が続いたため、占いに見てもらったら「アワノカミサマ」を祀れといわれて、大岳院にある里見忠義の法名を位牌につくり、その家の仏壇に先祖と一緒に祀っているということであった。この家のお墓の隣にも石の「アワノカミサマ」があるが、大切におまつりしているという。

近くの山守小学校では、里見八犬伝の話をして5・6年生が演じて好評を得ているという。学校の玄関には伏姫と八犬士の大きなレリーフが壁を飾っているが、史実との混同がなければと良いと思う。関金町では毎年9月に「里見祭り」をして町興しをしている。

新刊書の紹介

八千代の女たち編集委員会編

『聞き書き 八千代の女たち』

- 激動の昭和を生きて 今 - 』

八千代市女性研修センターの講座を担当された島利栄子さんとその講座生の皆様の手で、八千代市の地域女性史『八千代の女たち』が発刊されました。

大正から昭和の初めに生まれた先輩の女性たちを語り部に、丁寧に聞き書きして、文字通り激動の時代と、その中を生きぬいてきたお話をまとめた本です。

その語り部のお一人として、当会員の石井尚子さん、「がむしゃらに幼児教育」というテーマで、高津団地内に開園された幼稚園にかけた人生を語っています。

そのほか、八千代の農業を支え、ムラの伝統行事を伝えてきた旧家の女性たち、教師・助産婦・警察官など女性の社会進出のさきがけとなった方々、寺院・商家などに嫁ぎ地域に根ざして活動してきた方々のお話など、八千代の歴史や民俗を知る上でも貴重な記録がいっぱい詰まっています。

市立郷土博物館でも販売(¥800)されていますので、一読されてみたい方が多いでしょう。(藤・記)

八千代市立郷土博物館

市民企画展(～2004.5.30)

「私のたからもの展」公開中!

村上昭彦

昨年の12月より市民企画展実行委員の一人として、市民企画展「私のたからもの展」の企画運営にたずさわりました。「たからもの」の募集から、ヒアリング、解説作成、展示、レイアウトまで、それから広報全般を担当し、本当にいい勉強をさせていただきました。企画運営については、当研究会における「郷土史展」の準備などの経験が活かされたとも思いますが、実行委員の顔ぶれが多様なこともあって、教わったことも非常に多かったと思います。

市民から公募された「たからもの」はバラエティに富んでいます。その中から当会員上山さんと酒井さんの「たからもの」を紹介したいと思います。

上山さんの「泥面子」コレクションは有名な話。わざわざ展示のためにいろいろな文様のついた泥面子をピックアップ頂きました。中でも朱を施された「瘡瘡(ほうそう)神の御守」は郷土史通には一見の価値あり。

酒井さんの「たからもの」は安土桃山時代の巻物「正親町(おおぎまち)天皇期の洛外見物記」。今までガラス越しにしか江戸期以前の文書は拝見したことがありませんでしたが、実行委員の特権で、手に取って間近で拝見することができました。のちに豪商河村瑞賢が裏書を記した史料価値高き逸品です。

「私のたからもの展」は市博物館で5月30日まで!まだ観覧されていない方、お見逃しなく!

新入会員紹介

斉藤久夫 村上団地 在住

鈴木 登 佐倉市中志津 在住

= 編集後記 =

七年祭準備過程からの調査で、高津の旧村を歩いて、一年になります。

この間、高津団地入り口の茅葺屋根の旧家がなくなり、西霊園へ行く途中のツジキリの松林も道路拡張で変わり、大和田新田境の咳神様も撤去移転しました。

調査の度に、記録の重要性を感じる昨今です。

By.ゆみ

QWR07752@nifty.ne.jp